

「急性硬膜下血腫に対する外科的治療の現状調査」

○研究の概要

熊本県における急性硬膜下血腫に対する穿頭手術の実態を調査し、その適応について考察します。

○研究の目的と方法

目的：

頭部外傷によって発症する急性硬膜下血腫は、手術を要する場合、死亡率は 40~60%と報告されています。近年では高齢化や医療の高度化に伴い、急性硬膜下血腫においても高齢の方が増加傾向です。現行のガイドラインで標準的な治療法とされているのは全身麻酔下での開頭血腫除去術ですが、高齢者の方や、大きな持病を有している方に関しては、全身麻酔や開頭手術の負担が大きく、治療自体のリスクが大きなものとなり、治療を断念することもあります。治療負担、リスクが少ない手術方法として、局所麻酔で頭蓋骨に小さい穴を開けて手術を行う穿頭術を行うことがあります。開頭術と比較し血腫の除去率や止血が難しいことなどから、標準的治療には位置付けられていません。急性硬膜下血腫に対する穿頭術の現状を調査し、施行頻度、治療効果を検証します。

方法：

熊本医療センター、熊本赤十字病院、済生会熊本病院にて、2014 年 1 月から 2013 年 12 月まで、急性硬膜下血腫と診断され、何らかの外科的治療を施行された方を対象に、カルテを利用して、治療前の患者背景、受傷機転、受診時の状態、採血所見、画像所見、手術内容、術後管理、治療効果などの情報を利用します。情報は匿名化し誰の情報かわからないようにした上で暗号化し、集計、解析します。

○本研究の参加について

該当する患者様の電子カルテ上の情報を当方で集計します。個人情報全ては匿名化し報告致しますので、個人のプライバシーは守られています。この調査に参加したくない患者様がいらっしゃいましたら、当方に連絡頂けますと集計から外させて頂き、調査を中止することが可能です。

○調査する内容

急性硬膜下血腫と診断された患者様の、入院前の状態、入院経緯、受診時の神経学的所見、バイタルサイン、既往歴、内服状況、画像所見を含む入院時検査所見、治療内容、入院後の検査所見、入院期間、転帰

○実施期間

研究対象期間：2014年1月1日～2023年12月31日まで

研究実施期間：2025年6月20日～2026年3月31日まで

情報の使用開始日、熊本医療センターへの提供：2025年6月20日

○研究成果の発表

研究成果は学会や学術雑誌で発表を予定しますが、その際も個人を判別できるような情報は利用しません。

研究に利用する情報は、お名前、住所など個人を判別できる情報は削除し、研究用の番号をつけます。また、研究用の番号と個人名を結びつける対応表を当院研究責任者が作成し、研究参加への同意の取り消し、診療方法との照合などを目的に使用します。対応表や個人の情報は、研究責任者が責任をもって適切に管理致します。

○研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 脳神経外科 伊東山剛 TEL 096-272-1094 (病院代表)

○当院における研究責任者

済生会熊本病院 脳神経外科 部長 山城重雄 TEL 096-351-8000 (病院代表)

○問い合わせ先

同上